海外レポート	**タイ　バンコク**

「130 年続く人気の博覧会」

辻本　浩一郎

タイ赤十字博覧会は毎年多くのタイ人の注目を集めています。11 月下旬から 12 月上旬にかけて、タイ・バンコクのルンピニ公園で開かれ、約 10 日間にわたって多彩な催しが繰り広げられます。

中でも大きな催しは“クンラブット・クンラティダー”（良き息子良き娘）コンテストです。リーダーシップや道徳性などを身につけた知識豊富で信頼できる若者を募集し、主催者による投票が行われます。大人に成長した若者をたたえる意味合いもあります。

豪華な景品が当たるソイダオゲームも人気です。つるした星形の紙やリボンの中に景品が隠れており、星を選んで大型テレビや冷蔵庫、自動車、バイク、自転車から、バッグ、本、インスタントラーメンなどさまざまな景品を手に入れるというものです。このほか、毎回開かれるのがたこ揚げ大会です。数少ない昔の娯楽を後世に伝える目的で続いています。ほかにも健康診断サービス、宝くじの販売、巨大おけの中を走り回るオートバイのショーもあります。また 300 を超えるブース出展があり、食品、消費財、手づくり製品や地方の特産品が通常よりも安価で販売されます。

開催期間中、参加者からはタイ赤十字社への寄付や献血なども行われますが、それは「タンブン」の一種とされています。タンブンとは、より良い自分や自分の家族、そして後世のために善行を行い、徳を積むことです。仏教徒が多いタイ社会に深く根付き、タイの人々がとても大切にしている観念です。

この赤十字博覧会の歴史は１８９３年にさかのぼります。タイ赤十字社は、ラーマ５世の時代にメコン川左岸の国境を巡って争っていたタイとフランスの戦闘で負傷した兵士の苦しみを癒やすために設立されました。のちに運営資金を集めるため年１バーツの会費で会員を募り、この博覧会が始まりました。

第１回当時は衛生や看護を象徴した車や馬車、自転車、陸軍吹奏楽団のパレードなどが行われ、これが赤十字博覧会の原点となっています。

博覧会のアクティビティは時代によって変化してきました。そして長きに渡ってタイ社会と共にある素晴らしいチャリティーイベントなのです。

【景品が当たるソイダオゲーム】

上記の記事は、中国新聞 SELECT「最前線ビジネスサポーター発」にも一部、掲載されました。